

基礎医学系

教員数	教員等数 (人)	教 授 22 (18)	助 教 授 13 (11)	講 師 34 (29)	助 手 4 (4)	技 官〔準研〕 - (-)	
	異動状況 (人)	退職・転出 6 (5)	昇 任 4 (2)	採 用 20 (3)	学 内 - (-)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学 会 発 表 数			
		国 内	国 外	国 内	国 外		
	51 (87)		207 (210)		224 (270)		78 (51)
	受賞数	6 (10件)					
	研究費等	採 択 件 数		採 択 率 (%)		金 額 (千 円)	
		科学研究費	62 (66)	44. 3 (45. 5)		324, 130 (333, 000)	
		学内プロ	18 (22)	35. 0 (44. 2)		12, 500 (24, 750)	
奨学寄附金件数・金額		14件	13, 400千円	(26件	31, 050千円)		
受託研究件数・金額		25件	278, 577千円	(12件	380, 529千円)		
受託研究員		1人 (2人)					
施設・設備							

・ () は前年度の数値を示す。

1 基礎医学系の活動

- (1) 新規採用20件、転出5件、昇任2件の人事を行った。新規採用は昨年度実績3件を大きく上回っている。
- (2) 国外への学術論文の発表は、昨年度に引き続いて200件を超えている。
- (3) 科学研究費補助金の採択件数は62件、総額は約3億2千万円を超え、昨年並みの実績を維持した。また、競争的外部資金の獲得総額は約2億5千万円、間接経費は5500万円を超え、いずれも全学でトップにランクされる額を獲得した。
- (4) 学系としては全学ではじめて任期制を導入した。
- (5) 看護・医療科学類の創設のための教員配置、創設準備に貢献した。

2 自己評価と課題

(1) 研究活動の目標

優秀な教員の採用人事と流動的な教員配置を行う。

質の高い独創的な研究を行う。

外部資金、競争的資金の導入に努める。

研究環境の整備を行う。

(2) 研究活動の評価

国外への論文発表は200報を超え、昨年並みの高い水準を維持している。この中では、本学系で発見されたオレキシンに関する研究が世界的に注目を集め、被引用回数が1000件を超えて高く評価されている。また、オレキシンに関する研究及び動脈硬化モデル動物としてのトランスジェニックウサギの開発に関する研究でそれぞれ米国の学会賞を受賞したほか、国内の受賞1件、研究奨励金3件を含め6件の賞を受けた。

多くの教員が外部競争的資金の獲得に努め、獲得した研究費の総額は、全学でトップの2億5千万円を超えた。

過年度に比べて非常に多い人事案件をこなせたのは、看護・医療科学類の創設のための教員配置のほかに、競争的資金の獲得などにより特別教員配置を受けたことによる。

法人化を控え、学系の中期目標・中期計画を全学系で審議し、その基本方針をほぼ策定できた。

任期制の導入したことに伴って、教員の業績評価の基準案をほぼ策定できた。

(3) 今後の課題

研究活動に関しては、全体としてはある程度満足すべき水準に達していると評価できるが、なお世界最高の水準を目指して、研究の質を高めるべく教員の意識を高める必要がある。

研究環境の悪化、特に研究スペースの狭隘は自助努力にも拘らず解決されておらず、深刻な問題となっている。総合研究棟の建設が進行しているが、研究活動の停滞を招かぬよう研究スペースの有効利用に努める必要がある。